

令和3年度 墨田区立第三吾嬬小学校 経営報告書

令和4年2月17日

学 校 目 標	自立 自ら学び、考え、行動する人 共生 思いやりをもち、共に生きる人 健康 しなやかで丈夫なところとからだをもつ人
目 指 す 学 校 像	「すべてはみんなの笑顔のために」 三吾小に集う子供、保護者、地域、そして教職員、すべての人の笑顔あふれる学校
目 指 す 子 供 像	「教養と品格と」を身に付けようとする子供 「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ「思考力・判断力・表現力」「行動力」を身に付けようとする子供。そのために、主体的(proactive)に生きる子供
目 指 す 教 師 像	①教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子供とともに感動することのできる教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	【分析】	自己評価について	改善策について
各教科等指導	<b>【確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施等】</b> ① 学力向上委員会を中心に、組織的な取組を進め、基礎学力の向上を図る。 ② 令和の日本型家庭学習の手引きを作成し、知識・技能の確実な定着と主体的な学習の習慣を身に付けさせる。	B	① 教職員アンケート「組織的・計画的に各学習月間等に取り組んだ」肯定的回答 95% 達成。 6月実施の墨田区総合学習状況調査において、1月の調査との比較 +5ポイント達成は3年算数のみ。昨年度との比較(同一児童の比較)±0達成は3年、4年 国語のみ。未達成 ② 保護者アンケート「学校は家庭学習推進の手立てを実施」肯定的評価81.6% 未達成。「家庭学習にしっかり取り組んでいる」肯定的回答 75.5% 未達成。 全学級の宿題提出率85%以上 達成。 児童のミライシード活用率 77.0% ほぼ達成。	3.6	○
	<b>【特別な支援を必要とする子供に対する、組織的な支援等】</b> ① 特別支援校内委員会の充実を図り、個別の指導計画に基づき組織的・計画的な指導・支援を行う。 ② 特別支援教室「まなびの教室」との連携を図り、個々の児童にとってよりよい支援を探る。 ③ 不登校傾向、集団生活になじめない児童への個に応じた支援体制の確立	A	① 特別支援教育に関する研修2回、校内委員会の実施 3 階以上 達成。 教職員アンケート「特別支援に関する研修を深め、児童の指導に役立てることができた」肯定的回答100% 達成。 ② 教職員アンケート「まなびの教室との連携を図り、児童への支援が充実」肯定的評価 100%。 当該児童、保護者へのアンケート、まなびの教室への満足度 100%。 ③ 5月 学習室「みどり」開設。ほぼ毎日稼働。 当該児童の保護者のアンケート、満足度100% 達成。	3.8	○

様式 4

<p><b>【社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等】</b> 保護者・地域の協力を得て、職業についてのキャリア教育特別授業を10月16日に実施する。</p>	A	<p>10月16日(土)、9名のゲストティーチャーを迎え、キャリア教育特別授業を実施。 5、6年児童アンケート「職業についての意識の高まり」肯定的回答86% ほぼ達成。</p>	3.8	○
<p><b>【教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等】</b> ICT 機器を効果的に活用し、シンキング・サイクルを意図的に取り込んだ授業改善を進め、児童に各教科等の「見方・考え方」を習得させる。</p>	B	<p>年間7回の研究授業を実施。教職員アンケート「積極的に研究に取り組んだ」肯定的回答90% 達成。 R3 算数実力テスト 昨年度比+0.1(4年～6年・同一児童)未達成。 R3 理科実力テスト 7月調査比+2.8 達成。</p>	3.3	○
<p><b>【言語能力、コミュニケーション能力の育成】</b> 校長室暗唱チャレンジの取組を行う</p>	B	<p>① 各課題の合格者:4月44%、5月25.9%、6月28.1%、7月23.4%、9月23.2%、10月17.9%、11月16.7%、12月19.4%、1月12.9%(1月末現在) (ほぼ)達成したのは4課題。 ② 英語暗唱4、5月18.8% 6、7月14.3%、9、10月7.2%、11、12月5.3%、1～3月4.2% 達成したのは一課題のみ 未達成。</p>	-	-
<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>		<p>・新しい世代の変化とともに新しい試みが生まれ、思考や判断力が強化されていく。 ・シンキングサイクルを活用した授業の成果が発揮される場面が、児童同士の関わりで見られます。 ・継続、および更なる工夫で児童が飽きない形で定着できるとよりよい。 ・児童は、宿題とトッピングを自発的に行うように意識している人が多く見られる。 ・子供は進んで学習するとは思えないので、父母に話をする。</p>		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	【分析】	自己評価について	改善策について
生活指導等	<p><b>【問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等】</b> 基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめの防止に取り組む。</p>	B	<p>① 認知したいじめ問題に校内委員会で100%対応。年度内解消は60%。 ② 不登校傾向のある児童2%。未達成。 教職員アンケート「組織的な対応」100% 達成。</p>	3.7	○
	<p><b>【基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等】</b> 毎月の目標に合わせて、「三吾あいことば」の徹底を図り、児童が主体的によりよい環境作りを進める自主自立・自律の態度を育成する。</p>	A	<p>教職員アンケート「三吾あいことばを意識的、計画的に指導した」100% 達成。 児童アンケート「三吾あいことばを意識して生活した」肯定的回答85.2% 達成。</p>	3.8	○
	<p><b>【安全を確保するための取組等】</b> 定期避難訓練、安全指導、セーフティ教室、不審者対応訓練を徹底し、児童に危機回</p>	A	<p>児童アンケート「自分で自分の身を守ることができる」肯定的回答94% 達成。 予告なしの訓練で避難完了まで5分以内 達成。(ふた学年ずつ実施)</p>	3.9	○

様式 4

	避能力の育成を図る。				
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1件のいじめの発生も望まない。未然の対策が重要。</li> <li>・児童の声によく耳を傾け、些細な変化にも丁寧な対応をされていると思います。</li> <li>・いじめ問題については100%に近い解決をしてほしい。</li> <li>・児童が先生に相談できる関係を大切にしてほしい。</li> <li>・認知できていることが大事だと思います。先生方の努力にいつも感謝しています。</li> <li>・登下校の訓練はかなり困難と考えられるが今後場合ぜひ克服してほしい。</li> <li>・避難訓練の内容は児童の身についていると感じます。</li> <li>・児童アンケートでもみんなが真剣に取り組んでいることが理解できる。</li> </ul>			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	【分析】	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	<b>【経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等】</b> ① 校務分掌による確実な事務の遂行、各種委員会・部会、毎週の学年会の開催により、諸問題に組織的な対応を行う。 ② 服務事故防止研修を年4回実施し、服務に忠実で信頼される教職員の育成を図る。	A	① 教職員アンケート「組織的な対応」肯定的回答100% 達成。 保護者アンケート、学校の満足度97.3% 達成。  ② 教職員アンケート「当事者意識を持って研修を受講」100% 達成。 服務事故ゼロ、及び服務に関する問題点の指摘 1件(教職員の路上喫煙について) ほぼ達成。	3.9	○
	<b>【子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等】</b> 「第三吾孺小学校学校経営計画・学校評価表」に基づき、児童、教職員アンケート、に保護者アンケート調査を行い、教育活動の点検・評価を行う。	A	年2回の児童、教職員アンケートの実施。12月末保護者アンケートを実施。 予定通り、調査・分析・改善案の作成、次年度の経営計画(案)の作成、3月の保護者会で周知できる見通し。  児童アンケート「教育目標を意識している」 <b>【自立】84.5% 【共生】88.5% 【健康】92.5%</b> 教育目標のうた「自立・共生・健康」PV作成。	-	-
	<b>【教育環境・設備等の整備状況等】</b> 日々の巡回や、毎月の設備点検を行い、教育環境・設備等の整備状況を把握し、問題がある場合には教育委員会等との連携を図り、直ちに改善に努める。	B	毎月の設備点検は実施できないときもあった。未達成。  整備不具合、不良箇所の放置はゼロ。 達成。	-	-
	<b>【働き方改革、ライフ・ワークバランスについて】</b> ① 教職員の週当たりの在校時間 50 時間以内を目標に、月あたりの平均残業時間 45 時間以内を達成させる。 ② ジェンダーフリーな職場の	C	① 教職員アンケート「目標勤務時間を意識」肯定的回答96% 達成。 教職員衆あたりの在勤時間50時間以内を達成 42.5% 大きく未達成。 ② 今年度は主だった取組ができなかった。 未達成。	3.3	○

様式 4

<p>雰囲気を醸成する。  <b>【教職員の資質・能力の向上】</b>          校内研究・研修会、および朝礼講話、INAHO による研修を実施</p>	<p>A</p>	<p>一人1回以上の朝礼講話を実施 達成。          一人1回以上の「INAHO」原稿執筆 達成。          教職員アンケート「自己の資質・能力の向上に一定の効果があつた」肯定的回答84.5% ほぼ達成。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<p>・個と集団に主義主張がうまくかみ合うように互いが高めて問題があれば解決してほしい。          ・先生同士の声かけもよく行われていると感じます。          ・素晴らしい取組状況であると考えます。          ・創意工夫が必要。理想の働き方改革が実現できることを希望します。          ・コロナ禍で増えた業務もあると思いますが、効率的な働き方を心がけておられると思います。          ・メリハリつけた働き方ができる環境作りを継続して行ってください。          ・保護者からの三吾小に入れてよかった評価に先生たちの一生懸命さが伝わっていたのだと思います。          ・教職員の力量を高め児童の教育には重要な成果として導くことが考えられます。          ・現場では教員不足で人を育てる場では本当に命がけかと思ひます。その中で自己・学校の能力向上のために時間がいくらあっても足りないと思ひながら子供たちに尽くしてくれています。</p>			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	【分析】	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	<p><b>【教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等】</b>            保護者会、学校公開、土曜授業公開、「校長語らいサロン」等を通して、教育活動の公開と説明を行う。            学校便り、HP、動画配信の充実を図り積極的な情報発信に努める。</p>	AA	<p>・土曜学校公開の実施 オンライン公開も含め、達成。            ・学校だより、学年だより オンライン配信 達成。            ・HP 週3回以上更新 達成。            ・HP 閲覧数 142,690PV。動画通信106本・閲覧回数平均287.4回。(12月まで) ほぼ達成。            ・保護者アンケート「学校は積極的に教育活動や内容の情報発信に努めている」肯定的回答97.3% 高度に達成。            ・保護者アンケート「学校の様子を把握できている」86.5% ほぼ達成。            ・COCOOの導入 成功。</p>	3.9	○
	<p><b>【保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等】</b>            感染症予防対策を講じ、積極的に地域の教育力を学校教育に生かす</p>	A	<p>・10月16日(土)キャリア教育特別授業実施。9名のゲストティーチャーを招致。達成。            ・児童アンケート「職業への意識が高まった」肯定的回答86.5% 未達成。            ・書道ゲストティーチャーによる指導 実施。達成。            ・図書ボランティアによる読み聞かせ 宣言のない月に実施。</p>	3.8	○
	<p><b>【保護者・地域の意識の把握と啓蒙】</b>            ① 学校公開、各行事、学校評価アンケートを実施し、保護者や地域の意識、要望や意見を広く聞き、経営改善に生かす。            ② 校長「語らいサロン」を開催し、直接保護者の意向を聞いたり、学校の方針を伝えたりする。</p>	AA	<p>・校長「語らいサロン」4回実施(1月まで)うち2回はリモート開催。参加者のべ30名。ほぼ達成。</p>	4.0	○

様式 4

<p>③ 学校の環境を整え、明るくアカデミックな印象を演出する。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<p>・世界先進国では遅れを取っている分野。様々な機会に利用活用してほしい。                  ・日常から情報公開・共有を積極的にさせていただいていると感じます。                  ・学校での児童の様子は親も気になる点です。デジタル化で新しい取組をされていることが素晴らしいと考えます。</p>			

- \* 学校関係者・自己評価に対する点数は4点満点の評価です。
- \* 各取組の詳しい自己評価と改善案については、別紙「第三吾嬬小学校学校経営計画・学校評価表をご参照ください。

2 令和3年度学校評価のまとめ

2年目のコロナ禍である今年度は、教職員の大幅な入れ替えもあり、また途中休職、退職する職員もいた中で、これまでの経営を根本から見直すべき年となった。そういう意味では、上に「芽が伸びる」年ではなく、地面に「根をはる」1年になったと言える。困難な状況も少なくなく、そのたびに「やれなかった やらなかった どっちかな」(相田みつを)と自問自答しながら、教育目標の実現に向け一つ一つ丁寧に対応はしてきたつもりである。

そのような状況下で今年度成果と言える点は、個に応じた支援の充実のために行った取組だろう。特に、学習室「みどり」の開設は、当初予定していた通りの運営ができなかったにもかかわらず、ニーズの高さ、利用者の満足度の高さに驚かされるほどであった。来年度は、人的配置を強化していきたい。

課題としては、学力向上が挙げられる。令和2年度よりも、さらに組織的・計画的な対策をうってはみたものの、結果に結びつけるまでには至らなかった。今年度の反省を生かし、来年度以降目標を達成することができるようさらなる努力や工夫が必要である。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三吾嬬小学校 校長 川中子 登志雄 公印